

製品名: SUN2 (18Q3) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18444**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.25mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:2000,FC 1:20-1:50
分子量	80kDa

抗原情報

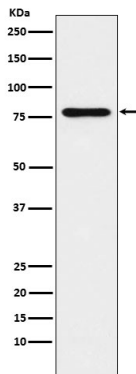
遺伝子名	SUN2
別名	FRIGG; UNC84B;
遺伝子 ID	25777.0
SwissProt ID	Q9UH99
免疫原	ヒト SUN2 の合成ペプチド

背景

SUN タンパク質は、核膜を跨いで核骨格とアクチン細胞骨格を繋ぐタンパク質ブリッジである LINC 複合体の一部を形成します。複合体の核膜側に位置し、LINC (核骨格と細胞骨格のリンカー) 複合体の構成要素として、核ラミナと細胞骨格の結合に関与しています。LINC 複合体によって確立される核質間相互作用は、核膜を介した機械的力の伝達、および核の移動と位置決めに必要な役割を果たします。具体的には、SYNE2 と SUN2 は、F アクチンケーブルに結合した膜貫通アクチン関連核 (TAN) ラインのアレイを形成し、アクチン依存性核運動中に核を逆行性アクチンの流れに連結します。中間核遊走 (INM) に必要であり、大脳皮質の放射状ニューロン遊走およびグリア遊走中の核運動と中心体-核結合に必須である。網膜光受容体前駆細胞の核遊走に必要な要素であり、細胞質ダイニン-ダイナクチンおよびキネシンモーター複合体、そしておそらく B 型ラミンとの関連を示唆しており、SUN1 と SUN2 は冗長的に機能すると思われる。SUN1/2:KASH5 LINC 複合体は減数分裂中にテロメアを微小管に結合させる。SUN1 と SUN2 は少なくとも部分的に冗長的に機能すると思われる。減数分裂の前期に染色体の動きを固定し、配偶子形成に必要なコーディング RNA と非コーディング RNA の選択的遺伝子発現に関与する。核膜へのテロメアの付着と配偶子形成に必要な要素。また、エンドサイトーシス小胞上で RAB5-GDP の受容体として機能し、RAB5 の活性化に関与する可能性もあります。

研究分野

画像データ



Jurkat 細胞溶解物における SUN2 発現のウェスタン プロット分析。